

二〇二四年度

二月四日午後入試

# 国語 (45分)

注意

- 1 開始の「チャイム」が鳴るまでは、中を見てはいけません。
- 2 答えはすべて解答用紙の解答らんには、はっきり書きなさい。
- 3 終わりの「チャイム」が鳴ったら、とちゅうでもやめなさい。
- 4 問題のページは、6-1 から 6-11 まであります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある場合は、句読点や記号も字数に数えます。)

※ 私たちは幸せになれるのか

右で書いたような不老不死の社会はあまり幸せなように思えません。不幸は少なく平等かもしれませんが、幸福もない退屈な社会のように思えます。結局私たちは幸せになれるのでしょうか。ここで少し、生物にとつての幸せとは何か考えてみたいと思います。

一般的には、幸せになることが人生の目的のひとつのようになっていくかと思えます。ハッピーエンドのおとぎ話は「末永く幸せに暮らしました」と結ばれます。幸せになれば人生はゴールだという認識があるようです。ただ、私には、<sup>①</sup>このような考え方は幸せを過大評価しているようにも思えます。幸福感の実態とは、煎じ詰めると「脳内での神経伝達物質の分泌と、特定のニューロンの発火」です。この発火がおけると人間の脳は幸福感を得るようになっていきます。

人間の脳はこの幸福感を、子孫を残すことに対する成功報酬として用いています。つまり、おいしいものを食べて栄養状態がよくなったり、ゆっくり休んで健康状態がよくなったり、<sup>※</sup>伴侶を見つけて子孫を残す確率が高まった場合に成功報酬として幸福感が与えられます。そうして人間は(おそらく他の動物も)、この幸福感を得るために、もつと子孫を残す行為にいそしむというしくみになっています。つまり、<sup>②</sup>幸せとは目の前にぶら下げられたニンジンです。

また、幸せは決して長続きしないものでもあります。それは成功報酬なので当然です。生物としては一度の繁殖成功で満足するよりも、二度三度と繁殖を成功させた方が子孫を増やせます。したがって、ひとたび幸せを感じたとしても、すぐにその状況に慣れてしまい、そして次の幸せ(もつと生存率を高めたり、別の個体とも繁殖する)を追い求めたほうが子孫をたくさん残せることになります。

ようするに、生物が増えるためのしくみとして幸福感を使っている以上、末永く幸せになることはあり得ません。もしかすると、過去に末永い幸せを獲得した生物はいたかもしれませんが、そういう生物は短期的な幸せしか得られない生物との競争に負けて絶滅してしまっただけでしょう。私たちは幸せになりたくて幸せを追い求めながらも、手に入れた幸せに決して満足することなく、次から次へと別の幸せを追い求める生物だったからこそ、現在まで生きのびられているのだと思います。

<sup>③</sup> 結局のところ、生物は末永く幸せになるようにはできていません。これは増えるものとしての当然の性質です。そして、「幸せになりたい」という欲求も「死にたくない」「仲間外れにされたくない」といった欲求と同じで先祖から与えられた刷り込みです。その程度のものとして、ほどほどに追求するくらいがちょうどいいのかもしれない。

私たちは何のために生まれたのか

幸せになることが目的ではないのなら、私たちは何のために生きているのでしょうか。

これに対する答えははっきりしていません。私たちには、「〇〇のために生きている」といったわかりやすい使命や目的はありません。私たち人間を含むすべての生命は物理現象です。増えて遺伝するものが出現すると自動的に起こる現象です。物質が重力によって下に落ちることに目的や使命がないのと同じように、私たち増えて遺伝するものの存在にも目的や使命はありません。

だとすると、何を目指して生きていけばよいのでしょうか。目的も使命もなく生きるなんて絶望的だと思う

人がいるかもしれませんが。この問題への対処法として、私の考えを2つ述べたいと思います。

### 対処法1 人間に対する過度な期待をやめる

結局のところ、人間が生きるのに目的や使命が欲しいというのは、人間に過度に期待しすぎているのだと思います。

※ダーウィンがいわゆる「進化論」を提唱した際にも同じような問題が起きています。ダーウィンの提唱した「種の起源」は、人間が神によってつくられたものではなく、サルと共通祖先から進化したことを意味していました。それまで人間とは神が自らに似せて創られたもので、使命を帯びて生まれてきたとする当時の考え方に反します。④おそらく、当時の人にとってダーウィンの説は受け入れがたく、絶望を伴うものだったでしょう。しかし、現代の人間から見れば、そもそもそんな使命があると信じていたのが不思議に思われます。そんな使命はなくても楽しく生きていけます。むしろない方が自由です。要するに、人間という存在に對して「神の子孫」だと過大評価をしていたということです。そんなたいそうなものだと思わなくても、サルの親戚だとしても、人間として楽しく生きていくのに支障はありません。

人間が物理現象のひとつだとするのも同じことです。イヌやネコや植物は自分の由来がどうだろうと、人生に目的があるうとなかろうとそこそこ楽しく生きているように見えます。人間だって同じです。たとえば私が「生きていることに目的なんてないですよ」といったところで、特に生きていることの楽しさが失われたわけでも、死んだ方がましになるわけでもありません。

すべての生物にとつて、死ぬことは全力で忌避するようになっていくはずですが、私は死にかけたことはないので推測でしかありませんが、生物のしくみとしては死ぬことはできるだけ忌避するようになっていくはず。つまり、もし、「このままだと死ぬかも」という状況になったときには、私たちの脳は平穏な気持ちにしてくれるはずはなく、特大の恐怖を与えて何としても生きているように仕向けるに決まっています（そうしたほうが少しでも生きているびて子孫を残す確率が高まるからです）。そんな思いはできればいたくないですし、生きているときどき幸せなこともあるので、生きていたほうがだいじです。ただ、こうした死にたくないから生きているのはちょっと後ろ向きな気がしますので、もう少し前向きな対処法も考えてみたいと思います。

### 対処法2 目的はなくても価値はある

まず、現在直面している問題を整理してみたいと思います。今、問題になっているのは、「人生には目的はなく、だったら生きている意味や価値がないのではないか」ということです。しかし、これは早計です。目的はなくても、私たちの人生には希少価値があります。

「希少価値」とは、珍しいものに付随する価値です。たとえば昭和64年に発行された500円硬貨などです。昭和64年は7日間しかなかったもので、その間に発行された500円硬貨は希少です。その珍しさのために古銭を取り扱う店では500円以上の値がついていたりします。その差額はただこの硬貨が希少であるがために生じた価値です。

希少価値が生まれるためには、少し条件があります。「その希少さを多くの人が認めている」必要があります。I、その辺に落ちている石ころも、実は地球上に全く同じ形や組成の石ころはないはずで、地球でただひとつのもので。しかし、誰も希少価値があるとはみなしません。それは多くの人にとって、そ

の石と他の石との違いがわからないからです。Ⅱ、その珍しさを理解することができません。他の石と一緒でしょ、と思ってしまうわけです。Ⅲ、もし石ころが光っていたりすれば違います。普通の石にそんな特徴がないことはわかりやすいので、その希少価値はすぐに認められるでしょう。希少価値が発生するには、珍しさが広く認識される必要があります。

さて、人間が生きている意味に戻ります。⑥ 私たち人間を含む生物には、目的も使命もありますが、この宇宙で極めて珍しい存在なのは間違いないと思います。動物学者のリチャード・ドーキンスも講演でこう述べたと言います「われわれがここにこうして存在しているのは、驚くほどの幸運であり、特権でもあるので、けっしてこの特権をムダにしてはならないのです」。

地球では、過去約38億年間で生物が800万種まで多様化しました。特にこの1万年については、人類という種が急速に増え、巨大な建造物をつくり、惑星外へと飛び出しつつあります。こんな急激な変化が起きている惑星は、広い宇宙でも地球だけかもしれません。

宇宙は広いので、もっと生物がいると思われるかもしれませんが、生物が文明を維持できる期間はそんなに長くはない可能性があります。地球上で人類が文明をもち始めてからまだ1万年も経っていません。あと1000年もしないうちに大量破壊兵器で滅びているかもしれません。もし文明の持続期間が1万年に満たないとすると、広い宇宙とはいえ、現在の瞬間に存在している生命体は地球だけだという可能性は大いにあり得ます。そうだとしたら、この宇宙で唯一の生命体が今まさに大躍進をとげているところです。もし全宇宙を支配する神様がいたとすれば、きっと地球の急激な変化にくぎ付けになっているでしょう。

この珍しさを多くの人が認識すれば（それは難しいことではないでしょう）、そこには希少価値が生まれます。私たち人類はこの宇宙で極めて珍しく、それゆえ価値のある存在です。この希少価値のある社会を維持していく、さらには今までなかったもっと珍しい社会に変えていくことには意味があります。⑦ 私たちがつ希少価値を大切にしていくことが、私たちが生きる意味だとみなすことができるかと思えます。

### 私たちがすべきこと

私たちがもつ希少価値を大切にしていくとは、具体的には何をすればいいのでしょうか。

まず必要なのは、今の人間の社会、文明、技術、知識の水準を維持していくことです。文明が滅びてしまえば、人間もサバンナに暮らすそれほど珍しくもない類人猿の一種に戻ってしまいます。それではせっかく培ってきた希少価値が台無しです。

⑧ 現在の社会水準を維持するためのひとつの手段は子孫を残すことです。私たちは未だ不老不死ではありませんので、誰かに引き継いでもらわないと人間社会を維持できません。ただ、子孫を残すというのは、他人との協力関係を確立した人間にとつては、社会を引き継いでいく方法のひとつでしかありません。私たちは多くの人と協力してひとつの社会を作り上げており、私の命は私と関わるすべての人の命の一部でもあります。私の命の価値は、私を中心にだんだん薄くなりながら広がっています。社会の中で私が自分の役目を全うすることは、子孫を残すこと以上に人間社会の維持に貢献するでしょう。

つまり、職業、家事、学業、何でもいいですが、社会の中で自分の果たすべき役割を果たすということです。月並みですが、それがこの希少な人間社会を維持するために個々の人間のすべきことで、それは今を生きる人間にしかできないことです。

⑨ しかし、ただ現状の社会の維持を目指すだけでは不十分です。現在の人間社会は限りある化石資源に大きく依存しています。温暖化などの環境問題もあります。これら人類が直面する諸問題を解決しなければ、

ほどなく今の社会を維持できなくなるのは間違いありません。

懸念材料はそれだけではありません。人間が今の文化水準を維持できなくなり、最悪滅びる可能性はいくつもあります。致死的な病原体が広まるかもしれません。近年の新型コロナウイルスの出現により、現代社会のパンデミックに対する耐性は大きく高まったと思います。しかし、感染症が起ころるのは人間だけではありません。小麦など主要な作物に感染するものが現れるだけで人間社会は大打撃をうけるでしょう。しかも、こうした主要作物は栽培効率を上げるために多様性のない集団となっています。あつという間に病気が広がる可能性があります。

大災害も心配です。過去の地球では、火山活動や隕石の衝突などにより少なくとも5回の大量絶滅が起きています。その大きな原因は火山の噴火や隕石によって巻き上げられた粉塵が何年もの間太陽光を遮ったためだと推測されています。真つ暗闇の世界では植物は育たず、植物を餌とする動物も育ちませんので、細菌以外の生物はほとんど絶滅することになります。このような規模の大量絶滅は、5000年から1億年に1回の頻度で起きています。同一規模の大量絶滅が起きれば、私たち人間のほとんどは餓えて死ぬことになるでしょう。

仮に、そのような火山の噴火も隕石の衝突も起きなかった、あるいは防ぐ方法を見つけ出したとしても、約10億年後には太陽光度の増加により、地球上の水がすべて蒸発し、地球は生物が住める温度ではなくなる予想されています。それ以上人類社会を存続させるには、他の惑星などへ移住をしている必要があります。

つまり私たちは、立ち止まったら遅かれ早かれ滅びる運命にあります。

A をさらに発展させ続けて

いかないと、現状維持もできないでしょう。ただ悲観する必要はありません。今の人間社会は自転車操業ですが、生命が誕生して以来、すべての生物は結局のところずっと自転車操業を続けてきたのです。そして、自転車の漕ぎ方はどんどんうまくなっています。

人間社会の科学技術を生み出す能力は向上し続けています。

ア 天才と言って有名なのは物理学者のアルバート・アインシュタインでしょう。

イ その後特許庁で働くかたわら、特殊相対性理論を発表し、1905年には博士号を得ています。

ウ 近年、人間の人口や教育水準は著しく向上しています。

エ 彼は1900年ごろにチューリヒ連邦工科大学で物理の高等教育を受けています。

オ それにより、科学技術の発展に関わる天才の数も増え続けています。

彼が物理学の発展に貢献できたのは、生まれつきの才能だけではなく、物理学の高等教育を受けられたからです。どんな天才であっても高等教育を受けなければ科学に貢献することはできません。そもそも科学に貢献しようとも思わないはずで、その意味で、アインシュタインが物理の教育を受けたことは人類にとつて幸運なことでした。おそらく、アインシュタインなみに才能がありながら、高等教育を受ける機会がなかった人は歴史上無数にいることでしょう。能力のある人を見出し、高等教育を施すことの重要性がここにあります。

人口の増加とともに、高等教育を受ける人の数は年々増え続けています。アインシュタインの時代の人口は約17億人ほどで、そのなかで博士学位取得者（高等教育を受けた人の数とみなせます）は、年間1000人にも満たなかったと推定されています。しかし今や人口は80億人、博士の学位取得者は年間16万人にも上ります。単純計算ですが、アインシュタインの時代には100人に1人だった天才は、今や毎年のように現れている計算になります。これだけの天才がいれば、不可能に思えるような困難も乗り越える道を見出して

⑩ くれるような気がします。

このような考え方は他力本願に思われるかもしれませんが。しかし、今の人間社会はみんなが得意分野で協力しあうことで成り立っているのです、人間にとって他力本願は正しいありかたです。才能を持った人たちが得意分野で才能を発揮できるようにサポートをすることが社会の大きな役割です。そして幸運にもなにかがかの才能を持っているのであれば、それを発揮するのが個人の役割です。

(市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』より)

※(注) 右で書いたような不老不死の社会

——ここより前の部分で筆者は、人間の未来は不老不死を実現する方向へとむかつていくだろうと述べている。

ニューロン——脳を構成する神経細胞。

伴侶はんりよ——ここでは、いっしょに子どもを産み育てる相手。

ダーウィン——十九世紀のイギリスの学者。

忌避きひ——きらってさげること。

パンデミック——感染症がばく発的に広がること。

自転車操業——かろうじてものごとを続けること。

問一 ——線①「このような考え方」として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 不老不死が実現すれば人間にとっての不幸は少なくなり、平等で幸せな社会になるという考え方。

イ 生物である限り必ず死というゴールが待っているので、結局人間は幸せにはなれないという考え方。

ウ 人間は幸せになる努力を続けるべきであり、一度の幸福感で満足してはならないという考え方。

エ 幸せになるために人間は生きているのであり、幸せになることが人生のゴールだという考え方。

問二——線②「幸せとは目の前にぶら下げられたニンジンです。」について、次の1・2の問いに答えな  
さう。

1 「目の前にぶら下げられたニンジン」は慣用的な表現ですが、どういうことを表す表現ですか。  
次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア その場しのぎの言動で相手をごまかすこと。
- イ 目先の利益をちらつかせて奮起させること。
- ウ 相手の働きにみあうほうびをあたえること。
- エ 実際よりもよいものとして認識にんしきさせること。

2 「幸せとは目の前にぶら下げられたニンジン」とありますが、「目の前にぶら下げられたニンジン」  
にたとえられている人間の幸せとは何ですか。それを説明した次の文の  a・b にあてはま  
る言葉を文中から  a は十二字、  b は四字でぬき出して答えなさい。

a  b  
場合に得られる。

問三——線③「結局のところ、生物は末永く幸せになるようにはできていません。」とありますが、「生物」  
が「末永く幸せになるようにはできて」いないのはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを  
一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 生物は二度三度と幸せを感じるうちに幸せな状況じょうきょうに慣なれてしまい、しだいに幸福感を得られなく  
なっていくから。
- イ 一度手に入れた幸せに満足してしまうと、生物は多くの子孫を残せすことができず絶滅ぜつめつしてしまう  
ことになるから。
- ウ 生物は必ず絶滅するものであり、短期的に幸せを感じたとしてもいずれ絶滅という大きな不幸が  
待ち受けているから。
- エ どんなに幸福感を得たとしても、生物には「死にたくない」「仲間外れにされたくない」という  
欲求がつきまとうから。

問四 —— 線④「おそらく、当時の人にとってダーウインの説は受け入れがたく、絶望を伴うものだったでしょう。」について、次の1・2の問いに答えなさい。

1 「ダーウインの説」とはどのような説ですか。それを説明した次の文の  にあてはまる言葉  
葉を文中から三十字でぬき出し、初めと終わりの四字を答えなさい。

人間は  という説。

2 「当時の人にとってダーウインの説は受け入れがたく、絶望を伴うものだった」のはなぜですか。  
次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 当時の人は神からあたえられた使命を果たせば自由に生きることができたのに、ダーウインの説はその使命を批判するものだったから。

イ 当時の人は生活することが大変な社会に生きており、神から使命を帯びて生まれてきたという考えに救われていたのに、ダーウインの説はその使命を批判するものだったから。

ウ 当時の人にとって使命をあたえてくれる神は絶対的な存在であったのに、ダーウインの説は神が存在することを否定するものだったから。

エ 当時の人は人間とは神が自らに似せて創った存在であり、神からの使命を帯びて生きていると考えていたのに、ダーウインの説はその考えを否定するものだったから。

問五 —— 線「対処法1 人間に対する過度な期待をやめる」の段落で筆者が最も言いたいことはどのようなことですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 人間という存在は物理現象のひとつでしかなく、人生に目的や使命はないが、だからといって生きることの楽しさや人間の幸せが失われてしまうわけではない。

イ 私たちはこれまで人間という存在に対して過大評価をしてきたことを反省し、これからは子孫を残すという生物本来の目的を果たすことに全力をつくすべきである。

ウ 死が近づいたとき人間の脳は非常に大きな恐怖をあたえてくると考えられるので、私たちはたとえ楽しくなくても、生きていくほうが死ぬよりもだいたいましなのである。

エ イヌもネコも植物も、すべての生物が「神の子孫」なのであり、人間だけが「神の子孫」であると考えるのは人間という存在に対して過大評価をしているといえる。

問六 —— 線⑤「私たちの人生には希少価値があります。」とありますが、「希少価値」はどうしたら生まれるのですか。解答らんの「ことによって生まれる。」につながるように十五字前後で答えなさい。



問七 文中の  I～Ⅲに入る語句の組み合わせとして最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- |   |        |          |          |
|---|--------|----------|----------|
| ア | I なぜなら | II つまり   | III だから  |
| イ | I ただ   | II あるいは  | III たとえば |
| ウ | I ですが  | II なぜなら  | III けれども |
| エ | I たとえば | II したがって | III しかし  |

問八 —— 線⑥ 「私たち人間を含む生物には、目的も使命ありませんが、この宇宙で極めて珍しい存在なのは間違いないありません。」とありますが、「生物」が「この宇宙で極めて珍しい存在なのは間違いない」と言う理由としてあてはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 広大な宇宙の中で他には存在しないかもしれない生命体であるから。
- イ 急速に数を増やしながらも大量破壊兵器で滅びる可能性があるから。
- ウ 人類という種がさまざまな技術やものをつくりだし続けているから。
- エ 地球の誕生から数えれば短い期間に文明が興って保たれているから。

問九 —— 線⑦ 「私たちがもつ希少価値を大切にしていくことが、私たちが生きる意味だとみなすことができる」のはなぜですか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 人間が存在していること自体に希少価値があるので、その人間が形成してきた社会を維持してよ
- イ 人間という生物が社会を生み出したこと自体が珍しく価値のあることなので、社会の価値をより多くの人に認識させていくことに人間の生きる意味があるから。
- ウ 人類が持続している文明自体に希少価値があるとわかってきたので、文明を発展させていくことこそがこれからの人類にあたえられた人間の新しい使命といえるから。
- エ 地球に人類が存在すること自体が珍しく価値があるとわかってきたので、地球上で増え続けていることがこれからの人類にあたえられた人間の新しい使命といえるから。

問十 —— 線⑧ 「現在の社会水準を維持するためのひとつの手段は子孫を残すことです。」とありますが、「現在の社会水準を維持するため」には「子孫を残すこと」以外にどのような手段があると筆者は述べていますか。解答らん「こと。」につながるように十五字以内で答えなさい。

問十一——線⑨「しかし、ただ現状の社会の維持を目指すだけでは不十分です。」とありますが、「現状の社会の維持を目指すだけでは不十分」である理由としてあてはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 現在の人間社会は、石油や石炭のような有限で温室効果も高い燃料にたよったエネルギーに支えられており、今のままでは維持が不可能になるから。

イ 現代社会は多様性がない集団であるため、小麦などの主要な作物に感染症が起ると、あつという間に人間にも広まってしまう可能性があるから。

ウ 今の科学技術では大規模な火山の噴火や隕石の衝突によって地球に大きな環境変化が起こった場合に、大量絶滅を防ぐことが困難だから。

エ 遠い将来には太陽の光度が増加して地球は人類が住める環境ではなくなると考えられるため、地球外に移住できる技術の開発が必要になるから。

問十二 文中の□ Aにあてはまる言葉として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 健康状態      イ 栽培効率      ウ 科学技術      エ 希少価値

問十三  中のア～オの文の意味が通るように正しく並びかえ、その順に記号を答えなさい。

問十四——線⑩「このような考え方は他力本願に思われるかもしれませんが。」について、次の1・2の問いに答えなさい。

1 「このような考え方」として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

ア 人間の人口はどんどん増加しているので、特に何もしなくても天才が現れて不可能に思われるような困難を解決してくれるだろうという考え方。

イ 高等教育を受ける機会がなかった天才は歴史上無数にいたので、だれもが高等教育を受けさせてもらえる今の人類は非常に幸運だという考え方。

ウ 今や天才と言えるような人物は増え続けているので、人類がかかえる難しい問題を乗り越える道を見出してくれる人が現れるだろうという考え方。

エ 人類は今まで人間社会を自転車操業で何とか存続させてこられたので、これからも自転車操業で何とかなるだろうと楽観視する考え方。

2 「他力本願」の意味として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 自分が持つ力を隠して、他人の力をうまく利用すること。
- イ 自分では努力せず、他人の力に期待をかけること。
- ウ 自分の実力を過信せず、他人と協力しあうこと。
- エ 自分の能力よりも、他人の能力を高く評価すること。

問五 筆者の論の要点として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。

- ア 増えて遺伝する存在である人間には、もともと生きる目的や使命はない。人間の生きる意味は、子孫を残し社会を維持して人間の希少価値を引き継いでいくことにこそあるため、子孫を残すために得意分野で協力しあうことが人間にとつての正しいありかたであるといえる。
- イ 人間に生きる目的や使命はないが、希少価値を高めることで幸せに生きることが出来る。その価値を高めるために、何らかの才能を持っている人はそれを社会のために役立て、才能を持っていない人のサポートをしていくことが社会の正しいありかたであるといえる。
- ウ 人間は生きる目的や使命がなくても楽しく幸せに生きることが出来る。人間は宇宙の中で希少価値を有した存在なので、その価値をより高められるよう自分の得意分野を活用し、才能ある人を社会でサポートして人間社会の維持や発展に貢献していくことに人間の生きる意味があるといえる。
- エ 科学の発展によって、人間には生きる目的や使命はなくても希少価値があることが明らかになった。その価値をこれからも引き継いでいくには今の科学技術の水準では不十分なので、社会全体で科学技術の発展のために協力していくことが、人間の新たな生きる意味になったといえる。

## 二 次の漢字と言葉に関する問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の——線部のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

- ① 仕事にセンネンする。
- ② キンコツたくましい青年。
- ③ 妹はまだ幼くカタコトしか話せない。
- ④ 判断のシヤクドを決める。
- ⑤ 校庭をジュウオウに走り回る。

問二 次の①～④の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- ① 用を済ませる。
- ② 平生から気をつける。
- ③ 相手の胸中をさぐる。
- ④ 教えを説く。

問三 次の①～④の熟語の読みは、後のア～エのどれになりますか。その記号を答えなさい。

- ① 時計
- ② 投手
- ③ 役場
- ④ 果物

ア 音と音とで読むもの

ウ 重箱読み（上を音、下を訓で読むもの）

イ 訓と訓とで読むもの

エ 湯桶読み（上を訓、下を音で読むもの）

問四 次の①～④の文の（ ）の中の言葉を、例にならって、相手を敬った言い方に直し、（ ）にあてはまる形で答えなさい。

（例）校長先生が（来る）た。（答）いらっしゃっ

- ① 入場券をお持ちでない方は（言う）てください。
- ② これから、そちらに（行く）ます。
- ③ お客さんから花を（もらう）た。
- ④ 社長があなたに（会う）ます。